キャラクター名: シルヴィア・サーティ

プレイヤー名:

シンドローム	ノイマン ノイマン	ワークス	FHエージェントB	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17歳	性別	女
覚醒	生誕	衝動	殺戮	初期侵食率	35 %
出自	母親不在	経験	力の暴走	邂逅	居場所

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0		1			1
感覚	0	1	0			1
精神	6		0			6
社会	2		0			2

HP	28
行動値	8
(非装備時)	8
戦闘移動	13
全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	11		ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	12	
運転：			芸術：			知識：			情報： FH	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
キーンナイフ（A）	射撃	6r+11	1	5		対象の装甲-5（最低0）してダメージ算出
FHG-666（B）	射撃	7r+11		6		この武器を使用した〈射撃〉判定ダイス+1
【紅ノ匣・蝶ノ型】	射撃	14r+11		12		1+2+4+5（使用武器：B×2）
【紅ノ匣・花ノ型】	射撃	14r+11		27		1+2+3+4+5（B×2+A×3）装甲-15

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
【実用】	
スカーレットリブラ（情報屋）	
キーンナイフ（控え）	
FHG-666（控え）	
サポートスタッフ：精神	
【フレーバー】	
携帯電話	
制服	
フォーマル	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
№55　不死者	P	N		
マリアベル・ホーリネス	P　慈愛	N　嫌悪		
FHエージェント	P 親近感	N 疎外感		
ﾏｻﾞｰﾛｻﾘｵﾞﾙｶ・ﾎｰﾘﾈｽ	P　遺志	N　隔意		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 28	残り財産P： 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
C：ノイマン	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	—	—	ｼﾝﾄﾞﾛ	—	
効果：	判定のC値-Lv（下限7）							
マルチウェポン	★	3	ﾒｼﾞｬｰ	武器	—	射撃	—	
効果：	二つの武器の攻撃力を合計							
ヴァリアブルウェポン	3	3	ﾒｼﾞｬｰ	武器	—	射撃	—	
効果：	《マルチウェポン》の武器追加							
ｺﾝﾄﾛｰﾙｿｰﾄ：射撃	★	2	ﾒｼﾞｬｰ	—	—	射撃	—	
効果：	判定を【精神】で行う							
ｺﾝﾊﾞｯﾄｼｽﾃﾑ：射撃	5	3	ﾒ/ﾘ	—	—	射撃	—	
効果：	判定ダイス+「Lv+1」							
勝利の女神	6	4	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果：	R1。判定直後、達成値+「Lv×3」							
ラストアクション	★	5	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果：	ｼﾅﾘｵ1。戦闘不能直前にﾒｲﾝﾌﾟﾛｾｽ							
ブリッツクリーク	★	4D10	イニ	視界	単体	自動	120↑	
効果：	ｼﾅﾘｵ1。即座にﾒｲﾝﾌﾟﾛｾｽを行う							
代謝制御	★	—	常時	至近	自身	自動	—	
効果：	代謝機能を完全に把握する							
暗号解読	★	ー	ﾒｼﾞｬｰ	至近	自身	自動	ー	
効果：	隠された情報を導き出す							
効果：								
効果：								
効果：								

【経歴】
楽しいかと問われると、たぶん違う。
ただ、長らく欠乏していた栄養素を摂取できたような。
どうしようもない生理的な充実感があった。

数か月前に【アウターヘブン】に参入した新人。
コードネームと合わせて「おいくら？（ハウマッチ）」「神の子と同じ値段（シルヴィア・サーティ）」などと偽名であることを隠そうともしないが、態度は温厚で丁重。【アウターヘブン】に合わせて仕立てた修道服を身にまとい常に柔和な笑みを浮かべている。
どのような伝手を使ってか現在も通学しており、いまは制服が可愛いという理由で神奈川県K市私立I高校に在籍。

頭脳労働と肉体労働がイコールで結ばれているタイプのノイマンシンドローム保持者であり、ナイフを用いた格闘戦と、彼女にしか理解できない法則性を用いた支援を得意としている。
しかし彼女が自ら誰かを手にかけるのは、やはり彼女にしか理解できない規則で定められた通称『謝肉祭』の日だけであり、『謝肉祭』のときの立ち回りと支援に徹する日の立ち回りは完全に異なる。
このこだわりは非常に強く、仮に自身の命や尊厳が脅かされようとも『謝肉祭』以外の日にはナイフを握ろうとしないし、『謝肉祭』のときは普段の支援に徹する姿勢に絶対に戻ろうとはしない。
いささか不便で面倒な性質をしているが、『謝肉祭』のときは一日中制服を着ているので一見して今の彼女がどちらなのか、判別は容易である。

（以下、秘匿情報）